

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4170100731
法人名	アクトセプトライフ株式会社
事業所名	中の小路紀水苑
訪問調査日	平成 19年 8月 1日
評価確定日	平成 19年 8月 29日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100731		
法人名	アクトセブライフ有限会社		
事業所名	中の小路紀水苑		
所在地	佐賀市中の小路4-16 (電話) 0952-27-0188		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年8月1日	評価確定日	

【情報提供票より】平成19年7月1日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 15 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1階~2階部分		
------	----------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費徴収 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 800円			

(4) 利用者の概要(7月7日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 82.8 歳	最低 70 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中尾医院 医療法人社団真仁会諸隈病院 副島歯科医院		
---------	---------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は街の中心部でありながらも閑静な場所に位置している。近くには官庁街や商店街があり、人の流れや車の音、街のざわめきに生活のにおいがする。職員は入居者の方に息子、娘、孫の様に思ってもらい、本当の家族の様に接する中で、尊敬の念をもって、支援している。「地域の中で明るく、楽しく、元気よく」の理念の基に、入居者はのびのびとした毎日をごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との交流の深まりに課題が残っていた。そのため、地域交流に力を入れるために地域の祭りや草取り作業に参加したり、校区中学校の職場体験学習を受け入れている。地域包括支援センターとの関係も密になってきている。運営推進会議の議題にも取り上げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価に取り組み、よりよき支援、介護を目指し、サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>介護、支援への取り組み、今後取り組んでいきたい事、外部評価の結果等の報告をし、それに対して地域の方の意見や提案を仰いでいる。地域の除草作業への参加や、職場体験学習の受け入れは、会議での提案が大きな要素になっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が面会等に見えた時は笑顔で接し、相談しやすい雰囲気づくりを心がけ家族にとっても安心できる対応である。玄関にご意見箱も設置されている。入居者や家族からでた相談や要望は、全職員に周知され、実行されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りや清掃作業に職員と入居者が参加したり、ホームでの行事に自治会長や民生委員、近隣の方に案内を出し、参加を呼びかけている。買い物や散歩の機会に近隣の方やお店の方と挨拶や会話を交わすことを心掛けている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「明るく、楽しく、元気よく」の理念を全職員で創りあげ、地域と共に歩むサービスを目指している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の具体的な姿を職員で常日頃話し合い、管理者はよく指導もしている。また、理念を図案化して身につけている。なお、職員採用時には、理念を理解してもらうように努めている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや草取り等の清掃作業に職員や入居者も参加している。また、敬老会行事には地域の方にも参加してもらっている。自治会長、民生委員、近隣の方へホーム行事への参加を呼びかけている。	○	校区中学校の職場体験で中学生を受け入れ、福祉に貴重な体験を提供しており、地域とのつながりを強めるためにも今後も継続が期待される。また、「地域密着型」として近所の方が更に来やすくなる方策の再検討も期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価の結果について全職員で話し合いをもち、改善点については更に検討し、より質の高いサービスを目指している。今回の評価にあたって全職員で自己評価の機会をもち、評価に前向きに取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所からこれまで取り組んできた事の具体的な様子や今後の計画について諸資料をもとに提案がなされている。会議の内容は開示され、議事録が玄関ホールに置かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、地域包括支援センターに度々顔を出して事業所の考えや実態を伝え関係づくりに努めている。また、運営推進会議に市の担当者も参加しており、意識の共有化が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りや日常の面会時、家族会、行事等の機会を通じて日頃の暮らしぶりを伝えている。電話による報告も多い。金銭出納の報告もきちんと行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等は職員に話し易い雰囲気を感じており、相談や話し合いを行っている。意見箱の設置もある。意見や相談事は全職員に周知し、運営に反映する体制が整えられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が少なく、入居者と顔馴染みの関係である。職員は担当の入居者が決まってはいるが、2ユニットの各入居者との信頼関係が築かれている。新規採用の職員があった場合は、引継ぎに十分配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時をはじめ、勤務期間に応じた研修計画が立てられており、それが実施されている。また、毎月、全職員参加の研修会が開かれている。定められた研修機会だけでなく、目標をもって、個人で研修に励んでいる職員もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や交流会を行ったり、同系列の事業所と定期的に研修会や会議がもたれ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者の基本的な情報や生活歴を把握するだけでなく、事前面談や、昼間だけ、或いは宿泊を伴う体験入居をしてもらい、安心感を持って入居できる様に努めている。家族や本人の要望、不安感もしっかりと受け止めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の人間性や尊厳を大事にしながら支援、介護にあたっている。人生の先輩として、また、親や祖父母の様に接遇し、入居者から教えられる事も多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に面談等を通して本人や家族等から希望や意向の収集に努め、入居後もその努力を続けている。希望や意向は介護計画に記載され、活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりが自分らしく暮らせるようにという視点から具体的な介護計画が作成されている。計画はスタッフ全員が理解しやすい内容になっている。家族とも十分に話し合いがなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しだけでなく、必要に応じて随時の見直しが行われている。一人ひとりの日々の記録、毎日の申し送り事項が活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望に応じて外泊や外出の支援が行われている。常勤の看護師3人と連携医療機関の協力で健康管理には万全を期しており家族も安心感を抱いている。通院にも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が確保され、何時でも受診や相談が出来る体制にある。往診も可能である。また、かかりつけの医療機関での受診にもきちんとした支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針があり、入居時に家族に説明が行われ、納得を得られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者の尊厳を大事にする気持ちを持ち続けており、さりげない言葉かけ、誘導、居室への入室等、多くの場面での配慮がある。また、個人情報の保護にも十分に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるものの、あくまでも入居者中心の時間の流れである。起床、就寝の時刻も自由である。日中は一人ひとり思い思いに過ごしておられ、職員はそれを見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じ食卓を囲んで食事をしている。食べこぼし等への支援はさりげなく行われている。入居者は食材の下ごしらえや食器の準備、テーブル拭き、後片づけ等その方に応じた役割りを果たしている。	○	和やかな食事風景であるが、本人や家族の希望もあって、食べこぼし用のエプロンを着用している入居者がおられる。どうしてもエプロン着用が必要か、或いは目立たぬような普通のエプロンが着用できないものか等の再検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭的な浴室で毎日入浴が出来る。入浴時刻や入浴時間の長さも本人の希望にそっている。夕食後に入浴される方もあるが、夜遅くの入浴は勤務体制上無理があり、希望にそえないでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	将棋、手芸、裁縫、習字、調理、その他生活歴を活かした役割りや楽しみ事がある。ペットの世話をしている方もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や買い物、公園等への遠出、地域も祭りへの参加などは楽しみの一つにもなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室入り口には鍵をかけていない。センサーやチャイムも無いが、出入りは職員が目と耳で確認している。目が届きにくい非常口には、消防署の指導を受けて、簡単な施錠をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルや消防計画があり、避難・防災訓練を年2回実施している。次回からは地元消防団に指導、協力をお願いしている。調理は電化調理器具を使用し、ポイラーも電気温水器で、極力火気の使用を控えている。喫煙は所定の場所で行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握は毎食ごとに行い、水分量の把握もきちんと行われている。献立は栄養士が作成し、高齢者向きの栄養バランスのとれたものとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の音や匂いがただよい、テーブルには季節の花ひまわりが生けられている。出来るだけ自然の光や風を採り入れ、居間で入居者は椅子やソファでゆったりと過ごしておられる。テレビの音量にも配慮があり、食事時はテレビのスイッチを切っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの好みや生活歴に応じた特徴のある居室になっており、馴染みの品の持ち込みも多い。居室に猫を飼っている方もいる。持ち込みの少ない居室には、ホームで撮った写真や本人手作りのカレンダーや手芸作品等が飾られている。		